

# 建造物の長寿命命化

## エルガード協会が議論

日本エルガード協会(藤原康生会長)が12月14日に開催した技術セミナー2012「コンクリート建造物の長寿命命化をめざして」電気防食・維持管理、そしてこれからの社会資本の在り方を考える」において、同協会顧問である蒔田實土木研究センター評議員と福手勤東洋大学工学部教授が「荒廃する日本」としなため」と題して討論会を行った。まず蒔田氏が「30年前の衝撃を振り返る」、福手氏が「これからのインフラマネジメントを考える」と題して講演し、これらの内容に関連してセミナー参加者から質問や意見を随時募り、両氏がこれに答える対話形式で、今後の社会資本の維持管理のあり方について議論を深めた。

### 蒔田氏警告生かされたか

### 福手氏自治体も「経営者」に

実な問題を扱ったことか「当時半永久的と信じら 造物が意外に早期に劣化 大きな関心を集めた。 れていたコンクリート構 している実態などを知ら



蒔田實顧問



福手勤顧問

## 蒔田氏「荒廃する日本」避けよ 福手氏アセット最大活用を

蒔田顧問は「30年前の 衝撃を振り返る」と題し て講演するなかで、31年 前に米国州計画機関評議 会が刊行した「荒廃する アメリカ」と、翌年に発 刊された邦訳書、これに 引き続いてわが国で起こ ったテレビや新聞等によ る報道ラッシュを振り返 った。

豊富な米国というイメ ージとのギャップから、 わが国の研究者レベルの みならず一般市民レベル でも大きな衝撃とともに ニュースが広がり、その 後も、コンクリート構造 物の劣化、危険性をデー マとする報道や出版が続 くことになった。

とくに80年代のNHK による「コンクリートク ライシス」などの一連の 報道・特集は、団地住 民、マンション購入者な ど一般国民にとっても切

建設会社の参加者 市 町村等の自治体で社会資 本の維持管理にあたる技 術者の数や予算規模に大 きな制約があることは聞 き及んでいたが、わが国 の高速道路会社では構造 の責任なかと犯人探し 物がよく管理されている 物かと思っていた。すぐれた 技術者も多量にいたはず だ。それでも中央道笹子 トンネルのような事故が 起こった。この事故の今 後の影響と、われわれが 考えるべき課題について 聞きたい。

蒔田顧問 個人的な見 解として述べさせていた だが、ある意味では、 30年前から予想されてい た事態とも言えるのでは ないか。すでに解説した 通り、「荒廃するアメリ カ」以降、コンクリート 構造物は劣化するもので あり、計画的に維持管理 を実施していかないと大 変なことになると議論さ れてきた。われわれは社

会資本の劣化 が先行した米 国から、実際 の事故事例な どを通して学 ぶチャンスも あった。それ なのに、わが 国でも大事故 が起こってし まった。技術 者として、わ れわれは一体 何をやってき

専門機関を設置して長期 的の研究・対応を行う体 制を整えた。米国の対応 が十分かどうかは別にし て、われわれが学ぶべき 必要とされているのでは ないか。

福手顧問 産学官連携 の重要性については注目 されてきている。こうし た連携によって可能にな ることは多いだろう。 連携推進に向けて、構 造物管理者には積極的に 情報公開を行い、民間の 力を導入するよう努めて ほしい。官が垣根を低く することが効果的だと考 える。

建設会社の参加者 自 治体の土木技術者の減少 のお話があったが、当社 でも人材育成、技術継承 について苦労している。 内藤英晴同協会技術委 員長 われわれ技術者と しては、各種資格制度な どをインセンティブとし て上手に活用し、各自が 自己研さんしていく必要 があるだろう。当協会も 「コンクリート電気防食 管理技術者」の資格認定 を行っており、すぐれた 人材の育成、技術力向上 に貢献している。

福手顧問 自治体が直 面している課題に、企業 が先んじて対応すること が求められるだろう。地 方の自治体になればなる ほど、技術伝承、人材育 成がでなくなってい る。今後も限られた条件 のなかで市町村が運営を



技術セミナーのもよう

しめた」点でも大きな役 割を果たした。 だが、その後、この問 題は「忘れら れがち」とな り、1999 年の小林一輔 氏の『コンク リートが危な い』出版の1 カ月後に山陽 新幹線トンネ ル内でコンク リート崩落事 故が起こる。

30年前の警告を生かし、 子どもたちに負の遺産を 残さないように十分な努 力を払ったのか。現実には多くの問題が残っているように思われる」と述べた。

一方、福手顧問は「こ れからのインフラマネジ メントを考える」と題し て講演。人口減少、財政 悪化、土木技術者の激減 などの全国の自治体が直 面している諸問題があ げ、財政破綻した夕張市 の事例から学ぶべき点と して『「最悪」を防ぐた めには「個々」にとっての 最善」を犠牲にすること も必要』『「人口減少』 は、施設の統廃合・スリ ム化のチャンス』などを あげた。そのうえで、公 的機関には企業の生き残 り戦略に似た「社会資本 の経営者」としての発想 が求められるとした。

続けていくためには、自 治体が一部の業務を民間 企業やNPOにアウトソ ーシングしていくほかに、 とくに土木分野では こうした民間委託が今後 拡大することにはほ 不可避といえる。

こうした状況を踏ま え、民間企業には委託業 務の受け皿としての活躍 が期待される。近く、自 治体等から力を貸してほ しいという要請が本格化 するはずであり、これに 応える準備を進めておく べきだ。

蒔田顧問 現在、多く 必要だ。

き、という声もある。た だ、これから人口が減少 していくことは確かだ、 基本は今ある構造物を、 必要に応じて間引きなが ら、上手に維持管理して いくことではないか。現 在のアセットを最大限活 用するようにすること で、生活水準を大きく落 とすことなく社会を維持 していくことはできると 考えられる。

蒔田顧問 12年9月に 国土交通省が「首都高速 の再生に関する有識者会 議提言書」を公表した が、これに関して様々な 考えや意見が出され、社 会資本の維持管理は本当 に難しい問題だといっ とが改めてわかった。

ただ、わが国を「荒廃 する日本」にするわけに はいかない。福手先生が 講演で言われた、『「最 悪を防ぐためには「個々 にとつての最善」を犠牲 にすることも必要』とい う姿勢から、今後の指針 が見えてくる気がする。

## 個々の最善捨て 全体の最悪避けよ

建設会社の参加者 ア セットマネジメントの観 点から、社会資本整備の 将来はどのようなあり方 が望ましいか。より小規 模になっていくのは避け られないのか。

福手顧問 どのような あり方が最善なのかはわ からない。もっと予算を 投じて公共事業を行うべ



蒔田氏(向かって一番左)、 福手氏(左から二番目)